

震災の影響で、平成22年度のごみ総排出量は28,553トンに

市では、ごみの総排出量が平成18年度をピークにこれまで減少してきました。しかし、本年3月11日に発生した東日本大震災によって粗大ごみや瓦などの、いわゆる「災害ごみ」が大量に排出されたため、平成22年度のごみ総排出量は28,553トン(前年度比33トン)に増加しました。

家庭ごみ量は微増、1人1日当たりの排出量は減少

全体に占める家庭ごみおよび資源の排出割合(図1)は、それぞれ家庭ごみ(燃えるごみ、燃えないごみ、白色発泡スチロール、粗大ごみ)64%、家庭資源16%の合計80%となっています。

平成22年度の家庭ごみは、3月の震災によって「災害ごみ」が大量に排出されたため(150トン以上)、18,397トンに増加しました(図2)。一方、市民1人1日当たりの排出量は624.3グラムに、前年度より3.2グラムの減少となりました。しかし、当市の減量目標値である531.6グラム(平成27年度)には、まだまだ削減が必要な状況です。

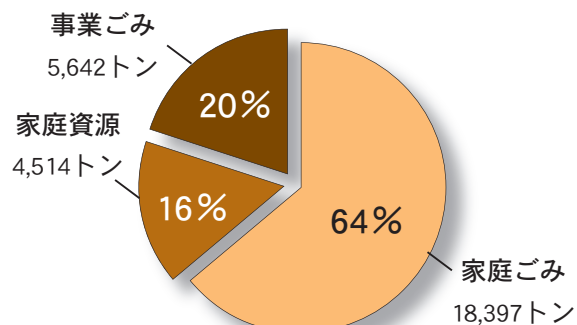
多くの自治体が人口減少している中、当市は毎年約900人が増加するなど、人口増加の著しい状態が継続しています。市民1人1日当たりの排出量の減少は、市民の皆さんのごみに対する意識の変化、排出段階でのごみ分別・削減の成果と分析しています。今後ごみの分別・削減にご協力をお願いします。

減らせるごみは約5,300トン

家庭ごみの中で「削減可能なごみ」は約5,300トン(32%) (図3)、市民1人1日当たり181グラムに相当します。平成22年度の市民1人1日当たりのごみ排出量(624.3グラム)は、平成27年度の減量目標値(531.6グラム)に約93グラム足りませんでした。私たちが生ごみの削減や資源物の分別の徹底を実践すれば、十分に達成できる目標です。

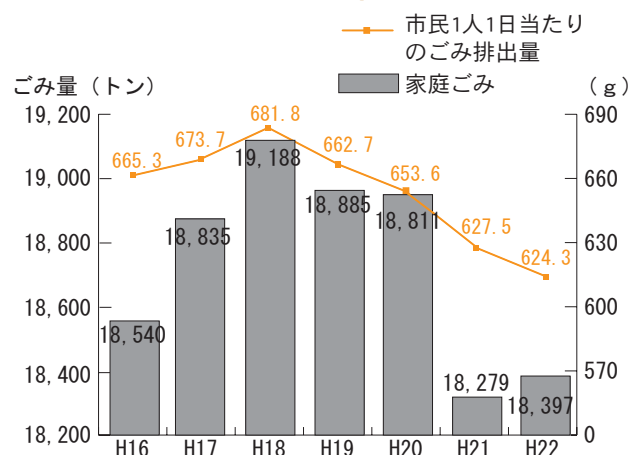
身近なことからエコライフをはじめ、自然環境の保護や生活環境の向上に努めてみませんか。

(図1)平成22年度牛久市ごみ総排出量(排出者別)

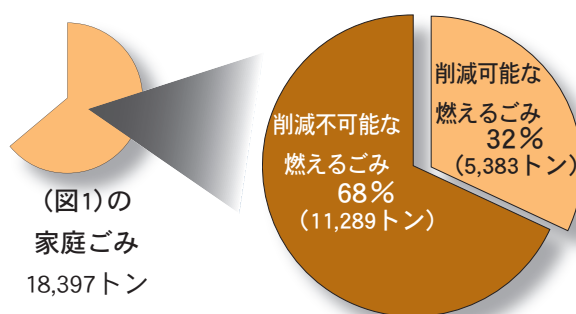


総排出量 28,553トン

(図2)家庭ごみ量と市民1人1日当たりのごみ排出量



(図3)家庭ごみの中の燃えるごみ量(16,672トン)



削減可能な燃えるごみ 約5,300トン

牛久クリーンセンターも電力量25%削減

東京電力(株)福島第一原発の事故により夏季電力供給不足が見込まれるため、牛久クリーンセンターも電力量25%削減を目標にしています。牛久クリーンセンターの処理設備の運転調整だけでは到底達成できず、ごみ処理量も削減する必要があります。そのためには、ご家庭でのごみ減量および分別の徹底にご協力をお願いします。